

## 「働き方改革」は生き残りをかけて 必ず通らなければならない道です

～ 「働き方改革」木暮局長インタビュー ～

昨年クローズアップされた「働き方改革」。皆様どのようなイメージをお持ちでしょうか。身近だけどちょっと難しい??でもぜひ真剣にとりこんでいただきたい!「働き方改革」への木暮局長の思いをお伝えします。



### ■「働き方改革」への注目度が高まっていますね。

電通の事件をきっかけに「働き方改革」への意識そのものが高まっていることは間違いないですね。一定規模の企業では労働時間管理を含めてきちんとやらなければならないということでの取組は進んできていると思います。ただ、一方で景気情勢が良く人手不足ということもあるので、「働き方改革」は人手不足を解決するための手段、短期的な問題と捉えてしまう企業があるということも確かなんですよね。

例えば、長時間労働対策も取組の一要素ですが、「とにかく労働時間を減らす」というように取組が形から入っているようなところもあります。アプローチの一つとして間違っていないのですが、残念ながら、それが労働時間を超えた人の使い方、人に仕事を合わせるというところに到達するところまではいっていない。

従来は「仕事に人を合わせる」というやり方で、企業が求める「仕事」に合わない人は非正規労働者になり、そもそも雇わなかったりということだったのですが、実は労働者のほとんどは、育児や介護、病気や障害等、何らかの事情や制約をお持ちなんです。「働き方改革」を実現するためには、そのような人がいらっしやること…何らかの制約がある人にも活躍していただくことを前提にビジネスを組み立てるという方向に発想を転換することが重要なのですが、まだ理解がそこまで進んでいないように思いますね。

### ■企業の取組意欲も高まっているようですが、「どのように取り組んだらよいか分からない」という声も多いようです。

大企業であれば、大胆な省力化とか資本投下によって生産性向上を図り、「働き方改革」の取組に資源を配分するというやり方ができるのですが、中小企業が同じようにすることは難しいかもしれませんね。ただ、逆に労働集約的な部分もありますから、人の働き方を変えることによって、例えば企業の運営の在り方とか生産の仕組みとか生産性そのものを変えていくというのはむしろ中小企業の方が工夫の余地があるのではないのでしょうか。中小企業の「働き方改革」は、そういう労働の現場とか働くことそのものについて改善とか工夫をやっていくというのが本来の姿ではないかと思います。

「働き方改革」は中小企業が生き残っていくために必ず通らなければならない道です。「働き方改革」が成功さえすれば中小企業は生き残れる…その取組が企業の競争力そのものになると考えて取り組んでいただきたいですね。

## 「働き方改革推進大会あいち」を開催します!!

「働き方改革」への理解と気づきのきっかけを探しにぜひお越しください!

日時：平成 30 年 1 月 22 日 (月) 13 時 00 分～15 時 20 分

会場：ウィルあいち (名古屋市東区上野村町 1 番地)

↓↓インターネットでのお申込が便利です。↓↓

[http://aichi-roudoukyoku.jsite.mhlw.go.jp/news\\_topics/event/2017/\\_122035.html](http://aichi-roudoukyoku.jsite.mhlw.go.jp/news_topics/event/2017/_122035.html)